魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）ニュース

第14号

発行日：平成 27 年１２月１日
開催日：平成 27 年１１月１６日
発　行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2624

第 13 回協議会に引き続き第一部で学校統合に関する検討、第二部で新しい学校の設計に関する検討を行いました。新しい学校の設計に関する検討においては、新校舎の模型を用いながら、校舎の配置について協議しました。

第一部　魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）意見書（案）の検討

意見書とは、魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）で検討した内容を最終的にまとめて、正式に教育委員会へ提出するものです。意見書の内容は、「中間のまとめ」（**協議会ニュース第 9 号**）をベースに、現在検討中の新しい学校の設計に関する「まとめ」を追加する作りとなっております。

魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）
意見書（案）の構成

意見書（案）

1　学校の統合についての方向性

2　配慮すべき事項

3　平成 28 年度以降に検討する事項について

4　新しい学校の設計に関するまとめ

5　今後の改築スケジュール

中間のまとめ記載事項
①上二中と向原中を統合します。
②校名は「上板橋第二中学校」とします。
③統合時期は平成 30 年 4 月 1 日とします。
④校舎の建築期間中は、上二中の校舎を使用し、向原中校地に建設する新校舎完成後、新校舎に移転します。

中間のまとめを基に、統合にあたっての配慮すべき事項を明示します。

統合に向けて、平成 28 年度以降に検討する内容について列挙する予定です。

現在検討中の新しい学校の設計に関する協議内容等をまとめて、平成 28 年度からの設計作業に反映させます。

学校の跡地活用について

「板橋区公共施設跡地活用方針」における基本的な考え方や配慮すべき視点について説明し、これまでに行われてきた学校の跡地活用の状況について報告しました。

協議会委員の方から、会議体を設置して検討してはどうかとのご意見があり、その旨を意見書に明記する方向で調整をしていきます。

質疑応答

委　員：跡地活用に関しては以前提案させて頂いたかと思いますが、今の協議会メンバーで専門委員会を設置するのはいかがでしょうか。跡地活用に関しては別の組織が検討しているということを聞いた覚えがあります。

事務局：跡地活用に関しては意見書（案）の２「配慮すべき事項」に「引き続き検討」という形で記載しています。現在は新しい学校の構想を中心とした協議を行っていますので、来年度以降の検討とした方がよいかとも考えていますが、いかがいたしましょうか。

委　員：「引き続き」という言葉が非常にあいまいに感じます。それをはっきりしていただきたいとい

う気持ちがありますので「専門委員会」という組織の提案をさせていただきました。

事務局：それでは、例えば意見書（案）の３「平成 28 年度以降検討する事項について」部分に明記するのはいかがでしょうか。

委　員：そうですね。

事務局：次回、専門委員会の検討も併せて記載させて頂ければと思います。

第二部　校舎建築に関わる意見のまとめについて

校舎建築に関するアンケートの分析結果を説明しました。なお、詳細についてはホームページに掲載しておりますのでご確認ください。(P.4 発行元下欄参照)

○ 魅力ある学校づくり協議会アンケートの概要

（１）対象

協議会委員及びオブザーバー、

上二中・向原中・上二小・大谷口小・板十小・向原小の児童、生徒の保護者

（２）アンケート内容：上板橋第二中学校（統合校）の校舎建築に関するアンケート（自由記述方式）

設問１；新しい中学校の建築について期待すること、大切にしたこと、目標としたいこと等がありましたら理由も含めてお書き下さい。
設問２；新しい中学校の建築について心配なこと、疑問に思うこと、もっと説明をしてもらいたいこと等がありましたらお書きください。
設問３；その他、ご意見、ご要望がありましたらご自由にお書き下さい。

（３）回収状況：配布 1631 通／回収 249 通（回収率 15.2%）有効回答 195 通（11.9%）

回答件数：計 444 件（**設問 1　210 件、設問 2　126 人、設問 3　108 人**）

※すべての設問が「特になし」「×」等で回答なしと判断したものは除く

（４）分析方法

・アンケートから校舎建設に関わる事項を抽出し、同種の記述はまとめる。

・各意見を「①取り組む」「②検討が必要」「③課題が大きい」の 3 段階とし、①は原則として実現するもの、②は取り組み方法を検討して実現するもの、③は実現するためには様々なハードルがあるものとして分類した。

（５）分析結果：　取り組む 228 件、検討が必要 32 件、課題が大きい 6 件、その他 178 件

設問 1；取り組む 169 件、検討が必要 24 件、課題が大きい 0 件、その他 17 件、計 210 件

設問 2；取り組む 41 件、検討が必要 6 件、課題が大きい 4 件、その他 75 件、計 126 件

設問 3；取り組む 18 件、検討が必要 32 件、課題が大きい 6 件、その他 86 件、計 108 件

新しく学校をつくるにあたって色々なご要望がありましたが、いただいたご意見のうち 6～7 割は対応できるものではないかと分析しました。引き続き、疑問等がありましたらご意見をいただければと思います。

機能別のイメージ図について

アンケートや教員へ実施したヒアリング結果をもとに学校に必要な機能について、図示し（次ページ参照）説明しました。

●学校の地域開放と防災機能のイメージ

地域開放と防災機能のイメージ図を提示し、協議しました。

質疑応答

委　員：向原町会は今年、向原中で防災訓練を実施する予定です。地震は頻繁に発生していますし、危機感は皆さん持っているとは思いますが、一時やっていた防災訓練だけでは、実際に発災した時にはどうしたらよいか分からないと思います。訓練は継続して実施するとともに、どこに何の物資があるのかも確認しておく必要があるし、飲料水やトイレについても問題になってくると思います。また、体育館ともかく、理科室、家庭科室など、教室を利用した訓練は行っていないので、なかなか入りづらいです。せっかくつくるなら地域と密着した魅力あ

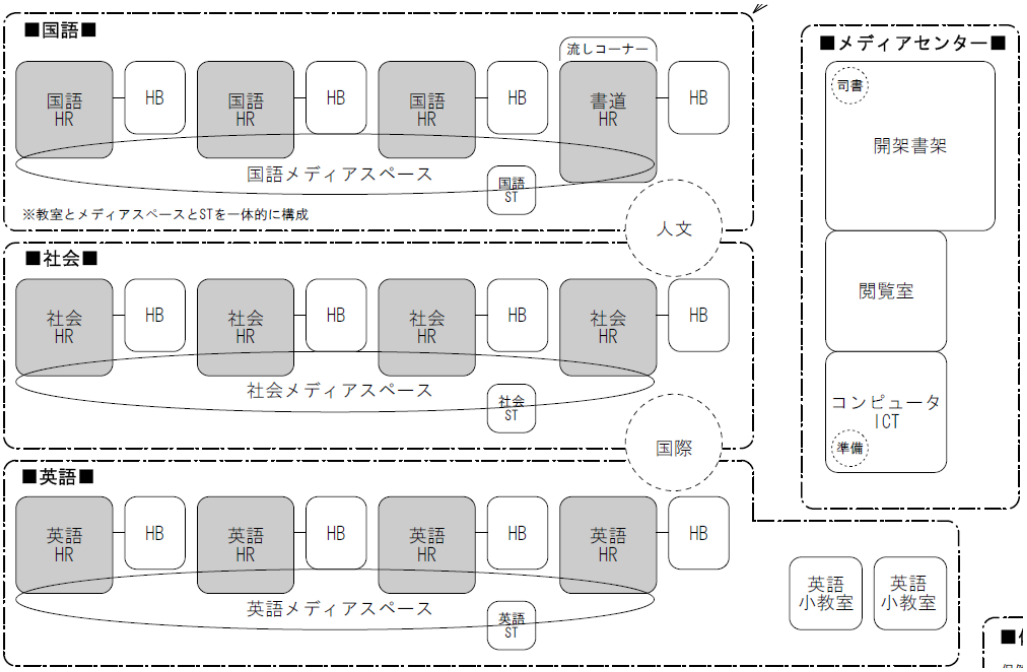
る学校づくりをぜひお願いしたいと思います。

委　員：上板橋第二中と小茂根二丁目町会は避難所開設訓練をこれまで４回開催してきました。その中で問題だと感じたことは、防災倉庫内の物資を出すには、雨が降ってても、外にでて体育館の裏から、防災倉庫に行かなければならないということです。そこで、体育館の中から防災倉庫内の物資が取り出せるような配置でないと、鍵の問題はあるかと思いますが、不便だと感じました。

事務局：防災備蓄倉庫の現在の配置については、学校としては非常に使いづらいという意見もあります。ご意見のとおり、新しい学校を建てる際は、避難した時の使いやすさや動線に配慮していく必要があります。

●教科センター方式の機能構成図（抜粋）

教科センター方式のダイアグラム（機能構成図）についてイメージ図を提示し、協議しました。



・教科教室、教科メディアスペース、教科ステーション（ST）で各教科センターを構成する。

・教科教室をホームルーム（HR）に割り当て、学級活動はホームルームで行う。

・教科及びホームルーム教室に隣接してホームベース（HB）を設ける。

・学年の学級数に応じたホームルーム教室数を確保し、6学級ずつの学年のまとまりをつくる。

・近接した場所にメディアセンターを設置することで、複合的な学習が可能となる。

質疑応答（IEE；教育環境研究所）

委　員：教科センター方式で展開して、学年ごとに教室配置をまとめることになったとき、例えば、1年生は国語教室と社会教室が割り当てになるといったように、学年ごとに教科がバラバラになる配置になるのでしょうか。

ＩＥＥ：委員のおっしゃるとおり、学年で別の教科教室になる可能性はあります。これは建築の構成の話になりますが、吹き抜けや階段で区切るなどして、学年のまとまりと教科のまとまりを工夫する必要があります。

事務局：現在改築中の中台中では、１年１組という表示の横に教科名のプラカードがあり、運営上ですぐに変えられるようにしています。

委　員：教科教室は学年ごとの分け方なのか、教科の内容ごとによる分け方なのか（例えば、社会であれば地理の部屋や歴史の部屋）どちらなのでしょうか。

事務局：それは先生方の話し合いで決めていくことになります。例えば、日本史の部屋、公民の部屋という分け方もありますし、それぞれが対応できる部屋にもできます。

委　員：例えば、国語のフロアではありますが、１教室だけ理科の講義を行うということも可能ということでしょうか。固定化すると全時間全員移動するイメージがありますので、可変的に運営できるのであればよいと思います。

ＩＥＥ：学校運営上の問題かとは思いますが、固定化もしていないので可能かと思います。

委　員：理科においては、教科センター方式ですと、講義の部屋があり、自習をするスペースがあり、実験をする部屋があり、うまく活用できるのではないかと思いますが、国語や社会の教室についてはIT化も進んでいる中で、掲示がボタン一つで変えられるようにもなるのではないでしょうか。どういう教育活動をこれからするのかという軸でゾーニングやフロア構成をしていく必要があるかと思います。ただ教科を並べて、学年ごとのまとまりをつくるだけのような気がします。

ＩＥＥ：おっしゃるとおり、IT化の進歩による教育活動もあるかと思いますが、中学校の段階で本格的な教科の取組みを初めて行います。その際に一番重要と言えるのが、教科がそれぞれ持つリアリティをどういう風に伝えるか、なぜその教科を勉強するのか、3年間でその教科を通して何を学ぶのかを環境を通して実感できる、1年から3年まで教科に関連する物を張りだして子ども自身が上の学年になるとこういう内容を学ぶのだということを、環境を通して実感できる、学年のまとまり、教科のまとまりだけでなくそれぞれの良さを実感できるようなまとまりができる設計が求められます。

委　員：全て教科センター方式にするのではなく、例えば国語などそんなに教材を使わない教科であるといった場合、教科センターとは別につくることはできますか。

ＩＥＥ：国語は普通教室とするなど、別にするということも検討としてはありましたが、中途半端だと、全て従来通りの特別教室型の授業になるか、全て教科センター方式になるかといったどちらかに偏ってしまい、うまくいかないというのが、過去に教科センター方式の改築を行った学校へのヒアリングで伺ったので、今回は全て教科センター方式でご提案させていただきました。

会　長：いずれにしても、いただいた意見はまとめ、例えば「可変性があるようなつくりをする」ということを協議会としてまとめていただければ、それをもとに設計会社にもっていくことになりますのでよろしくお願いします。

配置計画について（模型展示）

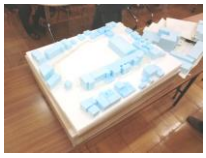
向原中の校地で考えられる校舎の配置について、模型でお示ししました。

配置計画にあたっては、通学路の設定と正門の配置が課題だということと、自主管理歩道を整備するためには、既存の樹木を伐採しなければならないことが考えられます。また、日影による規制もあるので、模型や図面でお示ししたものから多少変わる可能性があります。今回は3案を提示しましたが、グラウンドは100m直線路がとれて、200mトラックが確保できるような配置になっています。

こちらを踏まえ、次回までに日影等の条件を再度精査したうえで、各階のイメージも提案する予定です。

↓模型を見ながら協議する様子

↓模型



次回予定　協議内容

平成27年12月17日（木）午後6時30分～
向原中学校
【第一部】意見書(案)について（2回目）
【第二部】配置計画、平面計画
協議会は原則傍聴できます。
詳しくは下記までお問い合わせください。

発行元　板橋区教育委員会事務局　新しい学校づくり課　学校配置調整第一グループ
電話　3579-2624　FAX　3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）ニュースは区ホームページからご覧いただけます。http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/063/063153.html